

No.3 1993.7



(社)日本鋳物協会関東支部

支部だより

発行所 社日本鋳物協会関東支部
 東京都江東区永代2-19-7
 株 瓢屋内 〒135
 電話 : 03-3641-4121
 F A X : 03-3641-4138
 編集責任 支部長 神尾 彰彦
 印刷所 三和プリント有限会社

第 122 回 全 国 講 演 大 会



交歓レセプション

第122回全国講演大会は、平成5年5月25日(火)～5月28日(金)の4日間、東京都港区芝公園にある機械振興会館を中心会場として開催された。総登録数は729名で、大会日程と参加状況は次の通りであった。

5月25日(火)

- 技術講習会「鋳物の高付加価値化」 [65名]
- 懇親ゴルフ大会(京葉国際カントリー倶楽部) [33名]

5月26日(水)

- 総会
- 研究発表講演 (5会場)
- カタログコーナー (43社)
- ビデオコーナー (10社)
- 婦人観劇会「歌舞伎一團菊祭五月大興行」 [29名]
- 交歓レセプション(虎ノ門パストラル) [400名]

5月27日(木)

- 研究発表講演 (5会場)
- カタログコーナー
- ビデオコーナー
- シンポジウム「自動車とアルミニウム合金鋳物・ダイカスト」 [200名]
- Y F Eの集い [120名]

○ジュニア懇親会 [140名]
5月28日(金)

○工場見学(6コース、13工場) [230名]

本大会は、講演会場を5会場とし、昼食休憩時間を1時間45分とり、またシンポジウム、Y F Eの集いをできるだけ一般の研究発表講演時間と重ならないようにプログラムされたので全体にゆとりのあるスケジュールとなった。景気の影響が懸念されていたが、参加者は例年の大会に比べてそれほど変わらず、大変盛会であった。各研究発表講演会場は活気に満ち、活発な質疑が行われた。カタログコーナー、ビデオコーナーも多く、多くの会員で賑わった。

交歓レセプションも大盛況であり、会場となった虎ノ門パストラルの広い鳳凰の間も旧交、親交を深める会員で埋めつくされた。

本大会は4日間とも晴天に恵まれ、すべての行事が盛会裡にかつ無事に終了した。これは日本鋳物協会本部、各支部、ならびに出展企業、工場見学各社の皆様のご尽力の賜であり、そして準備、運営、実施にご努力頂いた実行委員の皆様のお陰であります。衷心より厚く御礼申し上げます。

YFEの集いとジュニア懇親会

第3回YFEの集いが大会第2日の午後3時から機械振興会館地下3階で開催された。会場は開会前から熱気につつまれ、若い技術者集団の力強い期待にあふれていた。近畿大学の中村先生から本委員会の名称が本部理事会において正式にYFE委員会に決定した旨の報告が伝えられ、ここに名実ともに自立の第一歩を踏み出したわけである。当日の講演は平成5年度の日下賞受賞者によって行なわれた。秋田大学の麻生氏による「含ボロン白鑄鉄に関する研究」、豊橋技術科学大学の寺嶋氏による「素材製造プロセスの制御と最適化」、大阪府大の辻川氏による「鑄造と“その場”合成された金属複合材料」、東北大学の蓮野氏による「鑄造プロセスにおける数値解析に関する私の研究について」、琉球大学の玉城氏による「オーステンバ球状黒鉛鑄鉄の被削性」の研究が発表された。若い情熱と力の感じられる素晴らしい講演会であった。最後に近藤YFE委員長によるYFE設立の苦労話があり、会議を終了した。

引き続き会場を6階に移し、ジュニア懇親会が開かれた。伊藤関東支部YFE主査の挨拶と関東支部でのYFE活動の近況報告の後、神尾関東支部長の発声で乾杯を行い懇親会が始まった。今回は、新しい試みとして、会場内のテーブルを5つの専門分野に分け、鉄や非鉄など各分野毎に興味をもっておられる方々に集まっていた。支部から、ホスト役として各テーブルに数人ずつ入り、初対面同士でも話のきっかけがつかめる様に進行した。会場は予定の人数をはるかに上回ったこともあって、若い熱気にあふれ、自由な語り合いと楽しい歓声が各所であっていた。宴半ばには、各支部代表の方々からの近況報告があり、近藤先生のおひざもとということもあってか、東海支部の大合唱や、四国支部のカラオケもどき等はまさに圧巻で、場内は大歓声につつまれていった。今後の鑄物協会の活動も大いに期待できるのではないだろうか。最後に次回の開催を関西支部にお願いし、大鉄産業の芝氏の音頭で三本締めにて大盛会の内に終宴した。

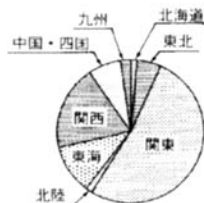
(永瀬利男)



ジュニア懇親会



ジュニア懇親会で挨拶をする伊藤YFE主査



ジュニア懇親会支部別参加者割合 (参加総数 140名)

—— 鑄造現場からの話題 永瀬 昭 平 ——

現場鑄造技術研究会も、本年7月9日開催で70回を数え、ひとつの歴史を作った感があります。

外側から眺めると、現場というものは案外10年1日のように、そしてエラーの繰り返しで進歩がないようにみえます。

再発防止などと歯止めをしても又々再々発という愚を繰り返すことがあります。

ハイテクの波に技術の歴史はどんどん塗りかえられる中に、人間根底にひそむ自己保身や嫉みという人間臭さが、現場に於けるエラーの繰り返しではならぬと思います。

不良対策一つをとっても、多岐多様の要因から一つの結果が生まれるので、なかなか対策のデータベースが出来ませんが、自社のデータが鑄物協会、更に日本の鑄物業界のノウハウにまで高められたら、繰り返しによるエネルギーの損失低減にもなると考えます。

そんな願いも込めて、最近現場鑄造技術研究会席上での話題の2、3を述べてみます。

○ニヤネットシェイプの要求に鑄物素材がどう答えるか、自社の寸法精度はJIS B 0403公差等級に對し工程能力があるか？

○特定個所にピンホール発生、方案をいじりたがるが、発生率と鑄込温度の平均値よりバラツキに注

目すべきではないか？

○エヤプレス方式の造型で、面尻りの精度・強度はどこまで確保出来るか、相手が生型なのだから、その特性値との相関がわかっているのか？

○鑄型強度計によるデータと鑄型の精度、変形について、造型法、砂特性との関連が、現場で利用出来るよう、成果を公開してほしい。

○材料の自由度と多量溶解には、キューボラが優位であるが、電気炉の省エネ、原価低減(10~15%キューボラより高い)についてノウハウを出し合う。

○鑄造工場にも、ロボットがどんどん導入されているが、まず難渋作業が優先される。

適用範囲、粉じん対策、プログラム入力 of 簡便化、安全等よい事例が発表されているが、どう自社に展開するか手掛りが欲しい。

○欠陥写真集が、かつて発刊されていて、欠陥の分類もされている。新しい見解・理論を加えて現場で使える改訂版が欲しい。

○RCSの窒素分を0.2%以下と定めてフィッシャータイプの欠陥を防止している例があり、広く事例を集めたら有益だ。

このように、多くの話題が鑄造現場より提供されています。これらの話題に関し、研究会席上や支部だより等にて御意見を戴ければ幸いです。

平成5年度支部通常総会の報告

4月27日(火)14:30から日産スポーツプラザにおいて平成5年度の(社)日本鋳物協会関東支部の通常総会が開催され、約60名の会員が参加した。

平成4年度事業報告、同収支報告、監査報告、平成5年度事業計画、同収支予算(案)などの議案がいずれも満場一致で承認され、総会の議事は滞りなく終了した。

15:00から恒例となった加山記念講演(第5回)が高橋忠生理事の司会により行われた。(勲)素形材センター大島敏和氏の「東南アジアの最近の鋳造技術」についての講演であった。

中国鋳造業界については鋳造設備も古く、生産技術的な課題も多く、日本のそれとは20~30年前の水準と思われていた。

しかし、氏によれば、一部の企業ではあるが、驚くほど急成長を遂げている。フラン鑄型による産業用機械鋳物製品は日本でも立派に用いられるものもあり、しかも、同様な生産技術を持つ工場が数多くあるという。

氏が直接技術指導・調査した24工場のうち、代表的な8工場について詳細に紹介された。

溶解設備の主力はキューボラであり、低周波誘導炉も併設されている。いずれの工場もわずかであるが、

日本に輸出している。その主な製品は工作機械、自動車部品及び一般産業用機械部品などである。主力鋳造設備の多くはヨーロッパ製であり、このような工場は全般的に技術レベルも高く、その多くは専門メーカーである。このことは中国経済の基幹となる機械・自動車産業の大きなニーズに支えられて、今後さらに成長するであろう。

つぎにASEAN諸国の鋳造技術の水準にも触れ、氏の海外への技術協力にける情熱に参加者一同感銘を受け、活発な質疑もかわされた。

17:00から懇親会となり、お互いに酒を酌み交わし、旧交・新交を温め、鋳造技術の将来を語り、時の経つのも忘れたが、18:30菊地政郎元支部長の音頭で手締めとなり、盛会裡に散会した。(野口昌彦)



第5回加山記念講演(H.5.4.27)

第2回研究部会企画委員会開催される

関東支部研究部会では、4月27日(火)日産スポーツプラザにおいて、平成5年度の企画委員会を、担当理事・助言顧問9名の出席により開催した。

各委員から提出された講演テーマにより、年間講演会スケジュール等を検討した。

(1) 最近の研究部会講演会テーマの内訳

表に過去6年間に実施した講演テーマの分類を示した。講演テーマ名まで載せると分かり易いが、紙面の都合で件数のみとした。

最近の傾向として、アルミ系に関するテーマが増

表 関東支部研究部会講演件数内訳
(昭和62年~平成5年4月)

	鉄系	アルミ系他
材質・溶解	3	3
鋳物砂・造型法	3	1
鋳造設備	3	0
凝固制御	0	3
(小計)	(9)	(7)
海外事情報告		4
(合計)		(20)

加したと言える。

(2) 第50回研究部会講演会開催のお知らせ

関東支部講演会として、
テーマ「アルミニウムダイカスト生産技術の進歩」
で開催します。多数ご参加下さい。

日時：平成5年11月15日(月) 10:00~12:10

会場：パシフィコ横浜セミナー会場No.511,512

プログラム：

1. 「アルミニウムダイカストにおける
垂直生産システム」
美濃工業(株) 杉山 直巳氏
2. 「アルミニウムダイカストにおける粉体潤滑」
(株)アーレスティ研究所 青山 俊三氏
3. 「ダイカスト鋳物の湯流れシミュレーション」
(株)日立製作所日立研究所 内田 敏夫氏

参加費：5,000円

[注] 詳細は「鋳物」9月、10月号会告参照下さい。
(近藤展啓)

関東支部YFE工場見学会開催のお知らせ

YFE秋のイベント内容が決まりました。今回は、川口でも異色な経営で、鋳物の未来を目指している2社の工場見学会が主体であり、必見のものです。見学会後の懇親会も、これまた飲み放題、食べ放題と至れり尽くせり。川口精鋭の工場を見学し、ピアガーデンで残暑を吹き飛ばし、更なる鋳物産業の発展に貢献するためにも、YFE諸氏は、会告を見ておはやめにお申し込みを!!

日 時：平成5年9月28日(火)13:00～

場 所：川口産業会館に集合

テーマ：「未来を目指す都市型鋳物工場」

内 容：

●工場見学

- ①週休3日制を導入し若手の多い鋳物工場
S P R株式会社

②工場内に熱帯魚が泳ぐクリーンファンドライ
株式会社辻井製作所

●懇親会 サッポロビアプラザライオン

(17:00頃より)

参加費：学 生 3,000円

50才未満 6,000円

その他の方 8,000円

定 員：40名(先着順)

なお、詳細は「鋳物」7、8号会告を参照下さい。

第71回現場鋳造技術研究会開催のお知らせ

・開催日：平成5年11月5日(金)

・場 所：早稲田大学材料技術研究所

・発表会社(予定)

①株ヤマト

②株日立製作所

③三菱自動車株

④株瓢屋

(社)日本鋳物協会本部・関東支部開催行事予定表

開催月日(平成5年)	行 事 名	開催地	主催	「鋳物」会告
8月23日(月)、24日(火)	平成5年度技術賞・豊田賞受賞記念講演会及び工場見学会	名古屋市	本部	6、7月号
9月26日(日) ～10月1日(金)	第60回国際鋳物会議(オランダ)	ハーグ市	CIATF	1、2月号
9月28日(火)	YFE「未来を目指す都市型鋳物工場見学会」	川口市	関東	7、8月号
10月12日(火)～15日(金)	第123回全国講演大会(北陸地区)	高岡市	本部	6、7月号
11月5日(金)	第71回現場鋳造技術研究会	東京都	関東	
11月15日(月)	第50回研究部会講演会「アルミニウムダイカスト生産技術の進歩」	横浜市	関東	9、10月号
11月15日(月)	シンポジウム「鋳鉄溶解最近の動向」	横浜市	本部	9、10月号
11月18日(木)～19日(金)	第5回鋳物現場技術大会(講演会及び工場見学会)	桑名市	本部	9、10月号
12月3日(金)	シンポジウム(ダイカスト部会企画)	名古屋市	本部	

詳細についての問い合わせ電話番号 本部：03-3541-2758、関東支部：03-3641-4121

編集後記

当支部で担当した、122回全国講演大会も無事終了し、最後のまとめとなる大会記録も、皆様の協力により順調に原稿が集まり、取りまとめの上期日通りに協会本部に原稿を提出することができた。しかし、提出後やれやれと思っている間に、支部だより3号の発刊準備時期となってしまった。原稿を書いて下さる方々は、忙しい折大変であったものと思うが、まずは、全ページを埋めるだけの原稿が揃い、こちらもほっと一息。

本号は、支部だよりの発刊1周年ということもあり、当初はいろいろと新企画を考えていたが、結局講演大会や、各部会の開催報告が主となってしまった。ただ1件、鋳造現場からの話題についての記事

を永瀬昭平理事よりいただき掲載した。次号以降もこのような形の記事が増えていくよう皆様の協力をお願いしたい。

関東支部も、関係者の努力によりやっとYFE活動が軌道に乗ってきたとのこと。企画内容もおもしろいものがあり、鋳物関係者なら是非参加してみたいと思うような内容となってきている。若い人の邪魔にならぬよう積極的に参加したいし、参加されてはと思うが、YFEの主旨は協会活動に対する、若手の参加率の増加であり、なるべく若い方を優先的に参加させていただけるようお願いする次第である。

(田村 朗)